

みんなの  
ための  
学校長会に

# 茨城県 学校長会広報

第237号

発行者  
茨城県学校長会  
会長 田邊 一男  
事務局  
〒311-1125  
水戸市大場町933-1  
教育プラザいばらき内  
☎ 029-269-1300  
FAX 029-269-1304

特集

## 新年度に備えて —我が校の課題— 危機管理体制の整備と学校安全の確保



### 目次

- 表紙写真に寄せて…………… 1
- 特集1「新年度に備えて  
—我が校の課題—」…………… 2
- 課題「先を見据えた人材育成」…………… 5
- 特集2「危機管理体制の整備と  
学校安全の確保」…………… 6
- 提言二題…………… 8
- 特別寄稿  
「教育立村を目指して」…………… 9
- 研修報告…………… 9
- ブロック研修会から…………… 10
- ひばり…………… 12
- 読んでみませんか…………… 13
- 梅のかおり…………… 14
- 市町村教育委員会と学校長会  
編集後記…………… 16

### 国際教育の充実に向けて

下妻・下妻小

鳩貝 雄

本校には、約五〇人の外国籍の児童がいます。毎年、筑波大学の留学生による出前授業「こんにちワールド」を行っており、今年で一四回目になります。参加した五年生は、台湾、ウクライナ、韓国の歴史や文化、魅力を学びました。その後、体育館で全校児童がゲームを通した「こくさい集会」を行い、留学生と交流を深めました。

本校の合言葉「元氣いっぱい 友達いっぱい 夢いっぱい」を目指して、グローバル社会に対応できる人材に育っていくことを願っています。

# 新年度に備えて —我が校の課題—

特集 1

## 道徳の「特別の教科」化に向けて

ひたちなか・市毛小 永井 左千夫

本校は、ひたちなか市の南西部に位置した、全児童数五五〇名の中規模校である。「いっしょうけんめい、ちからをあわせるげんきな市毛っ子」を合い言葉に、児童一人一人が夢や目標に向かってがんばることのできる学校づくりを進めている。

来年度は、関東地区小学校道徳教育研究大会茨城大会での授業公開を予定しており、昨年度より全職員で道徳教育の在り方についての研究に取り組んできた。次年度は、研究のまとめとして、次の点を中心に取り組んでいきたい。

一 「考え、議論する道徳授業」の創造

平成三〇年度からの教科化に向けて、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳の授業」の創造を目指し、全校挙げて取り組んできており、これまでの資料の読み取り中心の授業から主体的・対話的な授業へと質的転換を図ってきた。教材分析、発問構成、板書構成、そして交流活動等について研究を重ねてきている。今後は、児童の発達段階

に応じた「考え、議論する道徳」の授業の在り方についてさらに研究を進めていきたい。

二 全教育活動を通しての道徳教育の推進

人生をよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むためには、教育活動全体を通して道徳教育を推進する必要がある。本校では、各教科や総合的な学習の時間、特別活動との関連を計画的に進めるために、道徳教育

## 地域とともにある「一人一人が伸び合える学校」を目指す

常陸大宮・大宮小 鹿島 優

部垂（へたれ）城址に建つ本校は、今年創立二四五年を迎える。児童数は三二二名。「伸よく元気に本気で」の校訓のもと「当たり前」のことが当たり前に行える児童の育成」を合い言葉に、文武両道の精神とさらなる伝統の創造を目指している。現在、平成二八年・二九年度の二年間にわたり人権教育研究の県指定を受け、人権教育の研究に取り組んでいる。「相手を大切にする」とはどのようなこと

か」を考え、一人一人が伸び合える学校を目指している。新年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、次のことを重点に取り組みでいきたい。

一 自分の思いを互いに伝え合う  
主体的・協働的な学びの実践

これまで自分の思いを互いに伝え合うことができる児童を育てる学習指導の在り方として、授業のユニバーサルデザイン化に努めてきた。本年度は、さらに人権意識の高揚に努め、他者

全体計画の別葉づくりに取り組んでいる。また、各行事においては、PTAや地域との連携を大切にしている。来年度も引き続き、道徳教育の充実に向けて取り組んでいきたい。



との関わりを通して、自分の考えや気持ちを適切に表現し、他者の考えを受け入れ、互いのよさを認め合えるような授業の展開に努めていきたい。

二 家庭や地域と連携した教育活動・環境美化の推進

教職員・保護者・地域の方々との力を結集し、「地域とともにある学校」を目指したいと考えている。現在、食育ボランティアや環境美化ボランティア等の協力をいただき、教育活動や環境整備に大きな成果を上げている。今後は、外部の人材活用を一層推進するとともに、地域の声を学校経営に生かしていきたい。また、防災・安全教育の充実が本校の課題の一つであり、保護者や地域との連携は不可欠である。そのために、情報の共有化を強化し、不審者対応や通学路の安全等、地域を巻き込んだ防災体制の整備に努めていきたい。



なかよし集会から

# 分かる授業の実践と 積極的な生徒指導の推進

日立・十王中 佐藤 裕

本校は、日立市の北部に位置した山城の跡地に建てられた学校である。平成一六年に日立市に編入合併し、日立市立十王中学校と名称を変更した。現在の生徒数は四四六名の中規模校である。学校が昔の城跡に立地しているため、生徒は日々傾斜のきつい坂道を歩いて登下校している。部活動が盛んで、朝早くから生徒と職員の元気な声が校庭や体育館から響いてくる。また、校内でも生徒とすれ違うたび「こんにちは」という元気な挨拶が交わされている。

しかし、生徒の学校生活を分析すると次のような課題が上がってきた。一つは学力面である。学力診断のためのテストから、各学年共通して文脈や問題を読み取る力が身に付いていないということである。二つ目は、欠席がちの生徒が多いということである。三〇日以上欠席という数値目標を立てたが、現段階ではそれを上回っている。そこで、次の二点に力を入れて教育活動を推進している。



## 一 分かる授業づくりの実践

生徒が分かる授業の取組は、授業研究の充実と授業改善が必須である。生徒が「分かった。できた。」と喜びを感じる授業になるよう、課題研究を通して授業の質の向上を図っている。また、各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を推進している。

二 情報共有による生徒支援  
本校では、毎週水曜日に生徒指導部員会を位置付け、各学年の支援状況の意見交換を行っている。互いの学年の支援方法の一つでも生徒の状況が好転した事例の情報共有は、不登校生徒支援の一助となっている。  
次年度も、生徒のよさを認め励まし教育活動を推進する。

潮来市の中心に位置し、水郷潮来として、水とともに歴史と文化に大変恵まれた環境にある本校。住民の学校に対する関心は極めて高く、協力的な地域である。児童がこの地域のよさをしっかりと感じつつも、これからの時代を生き抜くために、広い視野に立つて確かな学力を身に付けることを願い、「笑顔いっぱい・やる気いっぱい・夢いっぱい」の学校を目指し、「子供主体」「地域との連携」「教師力の向上」をキーワードに実践を進めていきたい。

## 一 子供主体

今年度の課題である「自分から進んで発表する」を克服すべく、本校の三つのチームプロジェクト「いいねプロジェクト（豊かな心）・たくましくプロジェクト（体力向上）・こだまプロジェクト（学力向上）」の研究をさらに深め、各教科・領域における学び合う活動を通して、自分の考えをもち、主体的な活動ができる子供の育成を図る。

## 二 地域との連携

地域の人的・物的資源を活用し教育内容と教育活動の向上を図っているが、さらに市の文化協会との連携を深め、絵画や習字、家庭科、地域学習など、

# 笑顔いっぱい・やる気いっぱい・夢いっぱい

潮来・潮来小 金田 久美子



夢を語るドレスデザイナー

## 活力ある児童の育成

### 一 小小連携と小中の円滑な接続を目指して

かすみがうら・七会小 高野 由紀子

本校の児童数は、年々減少し、現在七一名が在籍している。平成三〇年度は、二・三学年が複式学級となる見通しもある。今年度は「児童相互の人間関係が深まりやすく、異学年間の縦の交流が生まれやすい」小規模校のメリットを生かし、縦割り班による「全校道徳」を実施した。自分の考えを他に伝え、他の意見を聞きながら考えを広げ、深める授業を展開した。さらに、児童数が少ない小学

### 一 小小連携の活性化

今年度は三つの学年で、四小学校合同学習を試みた。公園探検（一年）スパーマーケット見学（三年）中央青年の家での野外活動（五年）では、教員がネットワークシステムを活用して連携し、グループ編成や活動の内

域のよさを感じられる活動を進めたい。また、都市部で活躍している郷土出身者等の「夢を語る人材」を活用し、児童に夢や目標をもつことの大切さを伝えていきたい。

### 三 教師力の向上

教師の専門性を生かした交換授業による一部教科担任制や若手教師を育てるTT授業等、OJTを意識した取組を実施してきたが、次年度もさらに充実させ、学習の雰囲気づくりや学習規律の大切さ、マネジメント法など授業を通して伝え、教師の指導力向上や児童の学力向上に繋げていきたい。

容を工夫することで、児童間の交流を深めた。また、活動のねらいが明確であったことから、子供たちも互いに抵抗なく、活発に意見を交換していた。



異学年交流では、活発に話し合いが進むが、同学年では同様にはいかないという課題解決の方策として、四小学校の交流活動は、次年度以降も内容を十分に検討して継続させたい。

### 二 小中の円滑な接続

中学校への円滑な接続のためには、中学校期に予想される学力や生徒指導上の課題改善の必要性を、小学校の教職員全員で認識し、中学校期で目指す生徒像を小中学校で共有する必要性があると考えます。

次年度からは、円滑な接続のための組織を編成し、全教職員の協働実践による、課題解決を図りたい。この取組は、ひいては本校の課題解決となる。

## 自ら学び考え行動できる

### 児童の育成

つくばみらい・三島小 鈴木 敏一

本校は、つくばみらい市の南部に位置し、周辺は田畑に囲まれた全児童六名の小規模校である。

平成二七年度は、算数の授業力ブラッシュアップ研修の協力校として研修を進めた。二八年度は、「自ら学び、考えを伝え合うことができる児童の育成」を組織目標に掲げて教育活動の実践に努め、その結果の一つとして「ソニー子供科学教育プログラム」に応募し、奨励賞をいただいた。

新年度は、次期学習指導要領を踏まえた授業改善と児童活動の活性化を進めていきたい。

### 一 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善

授業改善の視点として、次の三点を見直しながら進めたい。  
(一) 学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。  
(二) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程が実現できているかどうか。  
(三) 子供たちが見通しを持って

粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返れる。このような主体的な学びの過程が実現できる授業改善に繋げたい。

二 自ら行動できる児童の育成  
小規模校であるので、児童一人一人の活躍の場面は多くあり、市内の陸上記録会には四年生以上が参加し、音楽会には一年生から六年生全員で参加し活動している。次年度は、行事だけでなく、委員会活動や児童集

## 誰もが活躍できる授業と

### 児童会活動の活性化を目指して

筑西・川島小 古谷 明弘

本校は、特別活動、特に学級活動や児童会活動を中心に研究を進め、低学年から話合いのスキルに慣れ、折り合いのつけ方を実感として学びながら、よりよい人間関係づくりや学級経営の基盤づくりに一定の成果をあげてきた。その結果、特別支援学級在籍児童をはじめ、普段の教科での授業では目立たない児童も活躍できる姿が多く見られるようになった。次年度は、この成果を活かしながら次の課題

に取り組んでいきたい。  
一 全員参加の授業づくり  
本校は特別支援学級在籍児童や配慮を要する児童が多い。その子供たちが、いかに（交流）学級での授業に前向きに取り組む、所属感をもちながら仲間と共に学び合えるかが学級経営上も大きい。そこで、クラス全員に教師の指示がきちんと伝わるなど、学習規律がしっかりと身に付けられるようにするとともに、ユニバーサルデザインを意

会等の工夫・改善を進める。また、地域の特徴を生かした米作り、野菜作りの体験活動を通して、自ら考え行動できる児童の育成に取り組んでいきたい。



識し、誰もが授業に興味をもち、分かる授業が展開できるよう、授業研究や職員研修を通して、自らが教員の授業力向上を図っていききたい。

### 二 児童会活動の活性化

自分たちの学校を自分たちでよくしていこう、誇れる学校にしていこうと思えることは、自主的・主体的な児童を育て、自己有用感とともに楽しい学校づくりのためにも大切なことである。そこで、これまでの代表委員会や委員会活動の在り方を見直し、より児童中心のものとなるよう活性化を図りたい。そのためにも、児童によりよい学校づくりの視点からの課題意識をもたせ、その解決のために児童のアイデアが引き出され生かされるような取組にしていきたい。そしてこの話し合いには、これまで培った話し合いのスキルが生かされるものと考えます。



### 課 題



## 先を見据えた人材育成

県学校長会副会長 佐藤 和男  
(筑西・下館中)

本県の職員構成は五〇代が多く、この年齢層が退職することにより、学校のリーダーとなる層が薄くなる。それに伴い、今後新規採用者が増加することにより、指導力の低下が心配される。

そのような中、県としても、ミドルリーダーの育成、計画的な新規採用者の増加、若手教員研修の充実、等々に力を入れていく。

しかし最も大切なことは、各学校でいかに教員を育てていくかである。それは校長の使命である。女性管理職の育成を含めたミドルリーダーの育成、新規採用者や講師などの若手教員の育成、そしてベテラン教員が活躍できる場の設定などに、日々の教育活動を通じて具体的に対応していかなければならない。

ところで、ミドルリーダーに求められるものとは何があるだろうか。  
○人間性(いつも明るく、元気に、優しい。)  
○コミュニケーション力(常に声をかけ周りを巻き込む、同

僚との協働を大切にする。)  
○企画力・調整力(ビジョンをもっている。)

さらに、先を見通す力を身に付けてほしい。これは経験から身につけるものだが、日ごろからしっかりと判断できるよう指導していくよう心がけたい。

つまり、われわれはこのような力のある教員を求めめるだけでなく、積極的に育てていくことが仕事である。そのためには、若いときから、自分のライフワークを意識させ、育てることが大切である。授業力を高めることはもちろん、当たり前のことが当たり前にできること、そこからがスタートであろう。特に、女性教員については、ある程度の年齢になってからではなく、計画的に育てていきたい。また、本人に意識させるためには、各種研修や内地留学、論文などを経験させることも必要であろう。

若手教員はますます増えてくる。この若手教員は茨城県教育会の貴重な財産である。できな

きるようにしてやるのが先輩の役目である。すべてに共通することであるが、ほめて伸ばしていきたい。また、若手教員研修会で何を研修してきたのか把握しておくことも必要である。担当者に任せきりにせず、学校でさらに押さえて指導していくことが求められる。ある研修会で聞いたことがあるが、有名な旅館で若手を育てる十箇条の中に「まね、慣れ、己」という言葉がある。いろいろと理屈を言う若手もいると思うが、まず、先輩の良いところをまねることから入り、自分の教育観を築き上げてほしいものである。

そのためには、ベテラン教員の活躍が不可欠である。学校に

いる経験豊かな、指導力のあるベテラン教員は宝である。この人たちの言動を肌で感じ、まねることで成長が期待できる。人材育成は、校長に与えられた大きな使命である。人材がいらないと嘆くのではなく、先を見通した人材育成を進めることが必要ではないだろうか。日々の活動を通して、さまざまな方策で教員を育てるとともに、教員が相互に学び合い、助け合って育っていく組織をつくりたい。

## 生徒と職員が輝く学校づくりを 目指して 「役割と称賛が人を育てる」

坂東・南中 霜田 幸男

新任校長として「役割と称賛が人を育てる」を信念とし、学校経営に当たってきた。この一年を振り返り、校長のリーダーシップが如何に重要であるか痛感している。

学校現場では、ベテラン教員を生かし、中堅・若手を育てていくことが喫緊の課題となっている。教職員の人材育成は、校長として学校経営を進める上で、大きな柱の一つである。

四月当初、本校では学力向上と規範意識の確立の両面において課題がみられた。教職員一人一人奮闘しているが、十分な成果を感じることができない状況が続いた。原因として、各組織が十分に活性化されていないと感じていた。そこで、組織リーダーが孤軍奮闘するのではなく、サブリーダーの役割を明確にして、組織ミーティングの時間を確保し、チームとして取り組むことを意識させた。まだまだ十分とはいえないが、授業研究や生徒指導面において、各種テストやアンケート調査などから、一定の成果が感じられるようになってきた。

教職員には、スモールステップの達成感を味わえるよう、子供たちの成長を示すさまざまな資料を提示し、喜びを共有する場を設定している。今後の課題は、各組織のPDCAが円滑に行われ、組織として自主的な取組ができるシステムを構築していくことと考えている。

人事異動等で校務分掌も新たに編成される時期が迫ってきた。新年度を迎えてからでは遅い。この三学期に各組織運営のシステムを再度見直し、良好なシステムが人材を育てるを肝に銘じ、今後の学校経営に全力を注ぎたい。



特集2

# 危機管理体制の整備と 学校安全の確保

## 地域の力を生かす

小美玉・野田小 柴森 浩志

本校は平成二二年度からコミュニティ・スクールの研究を開始し、二三年度からは市のコミュニティ・スクールの指定を受けている。また、学区中学校との連携を幅広く進めている。

これまでの実践の中で、地域の力を生かした危機管理と児童の安全確保の体制を築いてきた。ここではそのうち三点について紹介したい。

### 一 学区コミュニティとの協力

本校は、学区内区長を中心に組織される住民組織「野田コミュニティ」と連携・協力しながら、様々な教育活動を展開している。「野田コミュニティ」を中心に、児童の学校外での安全確保のために次の二つが組織されている。いずれも「地域の力で子供を守るう」という考えの下、ボランティアで活動をいただいております。学校にとって心強い応援団といえる。

○「野田っ子まもろーズ」

保護者や住民約二〇〇人が、車のステッカーやバッジをつけて巡回や見守り等を行っている。

○「野田フレッシュユポリス隊」

地域の約一〇人の方々が、登下校時に立哨や付添いの他、学校の交通安全教室の協力等を行っている。

児童は年一回、これらの方々をお招きしてお礼の会を催している。児童に感謝の心と郷土愛を育む機会ともなっている。

### 二 学校支援ボランティア活用

本校では、地域の教育力を生かすために、授業や行事・昼休みなどに地域住民による学校支援ボランティアを多く迎えている。(二七年度のべ三五三人)

今年度は、地震対応の避難訓練の際に、消防士の保護者に講話をいただいた。参加した児童や保護者は、身近な方から話を聞くことで危機意識をより一層高めることができた。

### 三 小中・小小連携による防災訓練

今年度、中学校区につくられている「北学区コミュニティ」の企画で、中学校及び学区内三つの小学校が合同で避難訓練(引き渡し訓練)を実施した。中学校区全体で取り組むことで、児童生徒や保護者の防災意識を高めるとともに、各校では災害発生時の想定及び課題を明確化することができた。



北学区合同避難訓練

このように、地域の力を掘り起こし活用することは、危機管理体制の整備や学校安全の確保に大変有効であると考ええる。

## 震災復興工事終了と 学校安全の確保

### 震災復興工事終了と 学校安全の確保

潮来・日の出小 茂木 悦男

本校の学区は、東日本大震災で甚大な被害があった潮来市日の出地区である。震災当時、特に液状化の被害により、多くの住民が同じ学区の日の出中学校に避難し、職員も避難された方の支援にあたった。関係各機関の懸命な努力により、昨年三月復興工事が終了した。本校では震災の体験を安全教育に生かすべく、いろいろな取組を行ってきた。

### 一 小中合同の児童生徒引き渡し訓練

日の出小学校では、学区が同じ日の出中学校と以前から小中連携事業を進めてきた。小中の全職員が七つの委員会に分かれ、その一つの防災・安全委員

会では、合同の引き渡し訓練を実施してきた。震災当時、中学校での引き渡しが困難であり、中学生が小学校に来て保護者に引き渡すというかたちをとっていたが、今年度は移動時の安全を考え、保護者の判断のもと、小中学校それぞれで児童生徒を引き渡すことにした。

### 二 潮来市防災訓練への参加

昨年度潮来市防災訓練が、本校を会場に実施された。地域住民は原則自主参加であるが、児童の防災意識を高めることをねらいに、当日を授業日とし、全校児童で参加した。また当日市当局に依頼し、防災に関する五つの体験ブースを用意していただき、児童

に体験させた。消火器体験や煙体験、応急担架作成、防火衣・呼吸器装着体験などである。大規模な防災訓練に地域住民とともに参加することで、児童の防災意識は高まったと考える。

### 三 保護者や地域社会と連携した危機管理体制

児童生徒に関する安全確保については、普段の取組が重要である。本校では児童のほぼ全員が徒歩通学であり、創立当初から交通安全指導に力を入れてきた。毎月の交通安全のための立哨指導では、保護者や各種団体の方に協力をいただいている。また、月一回児童の通学班会議を開き、児童に安全な歩き方を中心に指導を行っている。

このように、地域社会や中学校と連携した安全教育を進めているが、復興工事による道路の整備は、児童生徒にとっては危険が増した状況とも言える。今後も児童生徒には「自分の命は自分で守る」という意識をもたせながら、安全教育の工夫改善を進めていく。



# 学校安全の確保と見直し

北相馬・文小 根本 清文

学校の安全管理の目的は、児童生徒及び教職員の生命や心身の健康・安全を守ること、事故が発生した場合には迅速な対応で被害を最小限に防ぎ、学校の機能的状況を回避することがあげられる。本校の登校下校時と休み時間の安全確保について述べる。

## 一 登下校時の安全確保

交通ボランティアの方々や保護者の協力により、児童の安全が保たれている。大人が見守ることのできる範囲には限りがある。



ることを考えると児童自身が必要【危険を意識】することが必要になる。

特に交差点での待機位置と道路歩行時の意識に課題が見られた。安全と思われる場所に車が突っ込んでくる事故が多発している現状から、「もし車が来たら：」と考え、電柱の後方で信号待ちをする・車道から離れることや車とすれ違う際の身体の向きや視線についても指導の必要性がある。

ただ単に前の人についていけばよいという状態から、一人一人が危険性を感じながら行動できるようにすることが大切である。これからも交通指導・保護者との連携・学級での指導を工夫改善しながら進めていきたい。

## 二 休み時間の見守り

業間と昼休みは多くの児童が校庭で遊んでいる。二つの門は閉められているが外部から来る人の手で開けることができ、防犯カメラは設置されていない。

不審者侵入を知らせる放送については毎年担任が学級で児童と共に確認している。避難訓練

は実施計画どおりに進んでいくが、実際に危機的状況になった場合の対応を考えると不十分さを感じる。

日々の状況から判断すると校庭で見守る教職員の少なさが挙げられる。不審者を認識した上で素早い対応を行うためには、ある程度人数の大人の眼が必要になる。教職員にとっても休憩時間となるが、児童の安全確

# 危機管理の現状と課題

桜川・坂戸小 杉山 吉男

## 一 はじめに

本校はなだらかな山々と小川に面した自然豊かな地域であり、通学方法も徒歩、自転車、バスと三通りある。緊急時に備え、危機管理マニュアルでの対応や避難訓練を実施し改善を図っている。登下校時の課題や安全対策について述べたい。

## 二 本校の現状

### (一) 危機管理マニュアルについて

○様々な緊急時に備えて設置しているが、縦割りの指示命令・連絡であり、校長・教頭不在の場合等の改善が必要である。

### (二) 避難訓練について

○不審者・地震・火災について引き渡し訓練も含めて実

保の必要性を認識した上で積極的に校庭に出て遊んだり、全体に目を配ったりする姿勢が大切になってくる。

児童が自分自身の身を守るためには、教職員の危機意識を持続させていく中で、学校生活を通して児童と共に考え、児童自らが【危険を意識】して行動できる習慣を育てていきたい。

実施しているが、単独での実施であり、洪水や土砂崩れ等についても見直しが必要である。

### (二) 登下校時

○学区が広いため、学校まで距離のある地区は三年生までバス通学、四年生からは自転車通学になる。職員の立哨指導、学校支援ボランティアの見守りや立哨指導の協力をいただき、保護者が車で迎えの際にも、一人で下校する児童がいないよう協力してもらっている。

## 三 今後の課題

### (一) 危機管理マニュアルの見直し

○校長（教頭）不在の場合等残っている職員で何をするか何が必要かを明確にしたマニュアルにしていく。

### (二) 地域連携避難訓練の実施

○実体験の反省を生かし、小中学校連携の訓練を計画する。



# 提 言 二 題

## PTA活動を通じて思うこと

行方市PTA連絡協議会  
会長 槐 新一



本年度、行方市PTA連絡協議会の会長を務めさせて頂いております。槐新一と申します。

日頃より校長先生をはじめ諸先生方には、市P連の活動にご理解とご協力を頂きこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

また、保護者の方々におかれましては日頃より積極的にPTA活動に参加、ご協力をいただき誠に有難うございます。

PTA役員活動はなかなか大変なことです。仕事を休んでのPTA活動もあります。そんな中でも会社や家族の理解や協力、支えがあつてこそできる活動だと思えます。本当に感謝しています。

私がPTA執行部の役員になって四年になります。その中で縁があり二年前には六つの小

学校が統合し開校一年目の会長をやらせて頂きました。役員として自分にできるのかと思う気持ちでいっぱいでしたが、先生方や保護者の皆様、そして地域の皆様のご協力があり終えることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

PTA活動は保護者の皆様に一人でも多く参加して頂き、先生と保護者が一つとなって活動していく場だと思っております。私も活動するからには、いつも笑顔を保ち、たくさんの意見をもらい反映させ、より良い活動ができるような努力をしていきたいと考えております。

現在私は中学校で会長をやらせていただいております。子供たちは地域の宝です。そして親にとつてもかけがえのない宝物だと思っております。これからはすべての子供たちを自分の子供のように身守つていくつもりです。

私事になってしましますが、私が中学校の会長になり、私の中学校三年生になる子供が、部活も終わり、受験モードに入ろうと思つているときに、重い病気になるつてしまいました。親として

目の前が真っ暗になつているときに、校長先生をはじめ、先生方や教育委員会、たくさんの保護者の皆様、たくさんの子供たちから応援をいただきました。

会長として学校や保護者の皆様の力になればと思つていましたが、今では、逆に学校や保護者の皆様、そして子供たちに力を頂いております。そしてその感謝の気持ちを忘れることなく、これからもずっと学校や、市P連の行事に参加し協力して参りたいと考えております。

先生、保護者、PTAで力を合わせ、明るい市P連になることも確信しております。

これからも皆様のご協力をよろしく願います。

## PTA活動を楽しもう

利根町PTA連絡協議会  
会長 山崎 敬子



今年度、利根町PTA連絡協議会の会長を務めさせて頂いております山崎です。

日頃より校長先生をはじめ諸

先生方におかれましてはPTA活動にご理解・ご協力を頂き、また、子供たちが健やかに学校生活を過ごすことができますことに深い感謝とお礼を申し上げます。

今回二回目の町P連の会長を受けさせて頂きました。我が利根町PTA連絡協議会は、小学校三校、中学校一校の計四校にて成り立ちます。会長は輪番制となつておりますので、現在会長を五年受けさせて頂いております。二巡目が回つてまいりました。二回目と申しまして日々学ぶことばかりです。

私が常々思っていることは、「同じ一年なら、嫌々やるより楽しんでやる」です。我が家には四人の子供がおり、一三年間の小学校生活のうち一〇年間は役員を受けさせて頂きました。すべて「長」の付く役職だったので、一番に考えたのが、「引つ張る人が楽しめば、一緒に活動してくれる人も楽しめるだろう」でした。そして、「できることをできる人が一生懸命頑張る」を基に活動をしてまいりました。できないことを無理にやろうとすると、負担はかかるし何よりも楽しくなくなつてしまいます。保護者の方々の負担が最小限になるよう、協力を呼び掛けています。

子供たちはそれぞれ違う種を持っていきます。これから花を咲かせていくことでしょうか。

しかし種だけでは花は咲きません。土があり、水や栄養があり、お日様がなくては成長はできません。成長するためには、土のように支えてくれる家族がいて、水や栄養のように元気を与えてくれる友達がいて、お日様のように温かく見守つてくださる先生方や周りの皆さんがい

ます。子供たちが健やかに育つよう、お日様のようにしっかりと見守ることが出来るPTAを目指していきたいと思えます。

子供たちのための楽しいPTA活動ができるよう頑張りたいです。

でも、PTAの活動は、子供たちがよりよい学校生活を送るために必要不可欠なものだと思います。確かに学校に行く機会を増えます。その学校に行くことを、学校での子供の様子や先生方とのコミュニケーションの場として考えて頂ければPTA活動も楽しくなってくるのではないのでしょうか。

子供たちはそれぞれ違う種を持っていきます。これから花を咲かせていくことでしょうか。

しかし種だけでは花は咲きません。土があり、水や栄養があり、お日様がなくては成長はできません。成長するためには、土のように支えてくれる家族がいて、水や栄養のように元気を与えてくれる友達がいて、お日様のように温かく見守つてくださる先生方や周りの皆さんがい

ます。子供たちが健やかに育つよう、お日様のようにしっかりと見守ることが出来るPTAを目指していきたいと思えます。

子供たちのための楽しいPTA活動ができるよう頑張りたいです。

特別寄稿



教育立村を目指して

社会力育て・就学前教育の充実・

家庭の教育力向上

美浦村教育委員会

教育長 糸賀 正美

人口減少が急激に進み、社会経済のグローバル化が進展する中で、資源小国である我が国にとって、将来の日本や茨城県、美浦村を担う子供たちを心身ともに健やかに育んでいくことはとても重要であります。

美浦村では、平成二五年度に、「人が人とつながり社会をつくる力」である社会力育てを軸に「美浦村教育振興基本計画」を策定し、これまで「ノーテレビ・ノーゲーム運動」、「選書会」や読み合いなどの施策を実施し、子供や大人の社会力を育てることに取り組んできました。

これまでの取組をいくつか紹介させていただきますと、「ノーテレビ・ノーゲーム運動」は、テレビをみたりゲームをしたりする時間をできるだけ少なくすることにより、社会力と学力の向上を図ろうとするものです。児童生徒にチャレンジ・シートを配布し、その取組を記録してもらい、保護者には、取組の結果を体験感想文として報告いただき、感想文集として発行、こ

のほか、標語を募集し優秀な作品は幟旗を作成し、学校及び公共施設への設置や年に一回推進大会を開催するなど、村ぐるみで取り組むことにより、各家庭でも取り組みやすい機運の醸成を図っています。

次に、「選書会」は、村内の幼稚園、小中学校の児童生徒全員に、一人三冊まで本を選んでもらい、子供たちが選んだ本を購入するという取組です。各学校の体育館に様々なジャンルの本を並べ置いて、その中から児童生徒が好きな本を選ぶのですが、選んでいる児童生徒の姿は真剣で、読書に対する関心を高めていることが実感できるものです。来年度は、保育所でも実施することとしています。

このような中、今後力を入れて取り組んでいきたいと考えているのが、「就学前教育の充実」と「家庭の教育力向上」です。まず、「就学前教育の充実」については、幼稚園、保育所、小学校、中学校との研修会、相互授業参観及び交流会を開催す

るなどして相互の連携・接続の強化を図っています。さらに、園児・児童生徒が発達段階に合わせ円滑に学習できる環境の整備や、幼稚園・保育所に専任の外国語の教師を配置するなどして、遊びの中から英語に親しみ、小学校、中学校でスムーズに英語の授業に入っていけるよう教育環境の整備に取り組んでまいります。

次に、「家庭の教育力向上」については、主体的な家庭教育が困難になっている家庭を、地域で支える仕組みをつくっていきたく考えています。この取組は、教育部局だけではなく、福祉部局を含めた地域全体の連携がとても重要となりますので、「村」という小回りの利く良さを十分に活かし、進めてまいります。

美浦村といたしましては、引き続き、社会力を高める施策に取り組みますとともに、魅力ある教育を提供し、家庭を支える取組を推進していくことにより、美浦村に住み、美浦村で子供を産み育てたいという方々がたくさん移り住んでいただけるよう、「教育立村」に向けて取り組んでまいります。

研修

第六八回全連小高知大会に参加して

ひたちなか・堀口小

石井 嘉紀

第六八回全連小高知大会は、一〇月二七・二八日に県民体育館を全体会場として開催され、全国から二五〇〇名が集った。人口七三万人、小学校数一九二校と、茨城と比べ遙かに規模は小さいが、大会運営には、県小學校長会が会員を総動員して、私たちが温かく迎え入れてくれた。

一日目、「社会の変化に主体的に関わり、共に豊かな未来社会の創造に挑む子供の育成」の副主題のもと、全体会及び一三の分科会を通して活発な研究協議が行われた。

二日目、高知に縁のある森澤紳勝氏（会社経営者）、白田久子氏（女優）、山本一力氏（作家）のシンポジウムでは、時代に対応する力の育成や教育の不易の役割等、各氏の熱い思いが語られた。

自由民権運動発祥の高知は、新しく自由な発想で文化を紡いできた。教育改革の最中、本大会の意義が当地の歴史に重なって見えるようであった。

報告

第六七回全日中宮城大会に参加して

北茨城・磯原中

櫻村 宣行

第六七回全日中宮城大会が一〇月一九日から二二日にかけて、仙台サンプラザホテルを主会場に開催され、本県からは田邊团长以下二七名が参加しました。

「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」をテーマに、八分科会での研究協議が熱心に進められました。

また、文部科学省からは、次期「学習指導要領」の改訂動向等についての詳しい説明をいただきました。

最終日には、石巻市立雄勝中学校の「復興輪太鼓」と仙台市中学校六校の合唱団による「復興から新生へ」のコンサートが行われました。東日本大震災で被災した宮城県が着実に復興し、子供たちも未来の夢に向かって羽ばたいていこうとする姿に大変感動しましたし、たくさんさんのエネルギーもいただきました。これからの学校経営の源にしていきたいと思います。

貴重な体験をさせていただきましたことに感謝申し上げます。

# ブロック研修会から

## 新しい時代を拓く 心豊かな日本人の育成

水戸・常澄中  
飯島 尚之

今年度の中央ブロック校長研修会は、十一月一日（金）「新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成」のテーマの下、小美玉市小川文化センター「アピオス」を中心に三つの会場に、多数の会員の皆様の参加を得て開催することができた。

近年のグローバル化や情報化の急速な進展に伴い、社会は大きく変化を続けている。それに伴い複雑化・困難化した課題に、素早く的確に対応することが、今まで以上に難しくなっている。そのような状況の中、学校を預かる校長にとって参考になる発表が、六つの分科会で提案された。

提案内容としては、「心豊かに一人一人が輝く学校経営を指した取組」「学校課題に対応した教職員の資質の向上を目指す取組」「児童の自尊感情の高揚や職員の活力を高める取組」「地域の物的・人的環境を活かした教育活動を推進する取組」「特別な配慮を要する児童の支



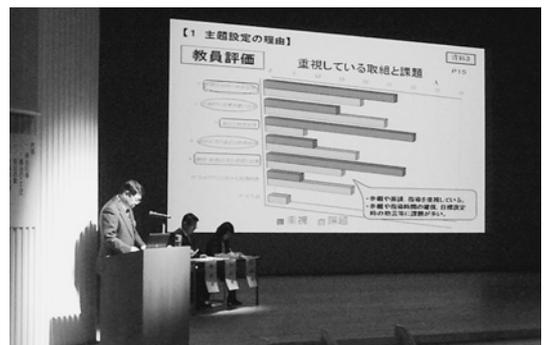
# 創意と活力に満ちた 学校づくり

北茨城・常北中  
山縣 和恵

茨城県北中学校長研究発表会が、十一月八日に高萩市文化会館を会場に、高萩市副市長泉幸一様はじめ県北各市教育委員会教育長のご臨席のもと開催された。講師には、茨城県北教育事務所長板橋幸子様をお願いした。

はじめに、今年度の県北校長会の研究主題「創意と活力に満ちた学校づくり」を受けて、日立市立坂本中学校澤島明校長が日立市学校長会のアンケート結果や研究テーマを踏まえて、研究主題「校長としてのリーダーシップを発揮した学校経営」人材育成を通じた学校力の向上」のもと、大量退職、大量採用を迎えた教育現場での喫緊の課題である「人材育成」について研究の成果が発表された。

特に、人材育成の方策については、『教員研修の充実』『教員評価』『人的環境の整備』を三つの視点と考え、研究のねらいに迫った。澤島校長のリーダーシップのもと、学年会や各種研修会を機能させ、豊富な資料を活用した具体的な関わりや指導実践が示された。協議の中では、



校内研修の在り方や若手・中堅・ベテラン等の世代別のやる気や指導力の向上について、活発な意見が交わされた。

次に、各市学校長会から特色ある取組等の情報交換がされた。現在の小中学校が抱える多様な学校課題の解決に迫る方策や具体的な校長の役割について、共有化を図る貴重な時間にもなった。

最後に、講師の板橋所長より、研究発表に対する講評をいただきとともに、「学校教育に求められていること」「組織を機能させた学校経営」「教員の資質向上を目指した校内研修」等について示唆に富む講話をいただき、半日の研修を終了することができた。

# 創意と活力に満ちた 学校経営

行方・玉造中  
橋本 正雄

県東ブロック学校長会は、小学校五三校、中学校二四校、計七七校で構成されている。

校種別の分散会では、学校の現状や課題を的確に把握・分析し、取り組むべき方策を明確にした実践の提案発表をもとに、活発な意見交換がなされ、研修を深めることができた。

今年度は、八月二日、行方市のレイクエコーを会場に、五三回目となる研修会を開催した。

## 一 研修テーマ

「創意と活力に満ちた学校経営」

## 二 提案発表

### 第一分散会

「未来に生きる力」を育てる学校をめざして  
行方・麻生小 青木利宏

### 第二分散会

「絆づくりは夢づくり」地域とともに歩む学校づくりを目指して  
鉾田・野友小 長谷川馨

### 第三分散会

充実した日の出小中連携教育を目指して  
潮来・日の出中 小畑弘美

参加者からは、「協議した内容が学校経営に活かせる」「充



**一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割**  
 取手・取手一中  
 戸部 明彦

「実した意見交換ができた」等の意見が出て、研修会の目的が十分達成できたものと考えます。

**三 講演会**

講師 茨城県教育庁学校教育部長 森田充先生  
 演題 「子供を伸ばす学校づくり」

参加者からは、「管理職としての心構え、子供の健全育成に向けた具体的な取り組みや考えを明確にできた」等の感想やアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について具体的な説明があり、明日からの学校経営に活かせる内容であった。

最後に、指導助言をいただいた茨城県鹿行教育事務所の皆様へ、改めて感謝を申し上げます。

今年度の県南ブロック研修会が、一〇月二五日（火）に茨城県南生涯学習センターにおいて開催された。二二名の会員が六つの分科会に分かれ、「一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割」を研究主題とし、提案発表に基づいて協議が行われた。来賓として茨城県市町村教育長協議会長・つくば市教育長柿沼宜夫様、茨城県南教育長連絡協議会長・土浦市教育長井坂隆様、講師として茨城県教育庁学校教育部義務教育課管理主事栗山賢司様、県南教育事務所長遠藤知昭様をはじめ八名の県南教育事務所の先生方に全体会並びに分科会でご指導をいただいた。

各分科会では、次の六名の先生方より、地域の特性を生かした教育活動等について発表があった。どの分科会においても活発な意見交換や実践等の紹介が行われ、今後の学校経営等の参考になる充実した研修であった。

**第一分科会**

統合を控えた学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進  
 土浦・斗利出小 古川郁子

**第二分科会**

主体的・協働的な学びを軸とした教育課程の実施を通してかすみがうら・志筑小  
 神田浩平

**第三分科会**

ふれあい 学び合い ともに伸び合う学校づくりを目指して  
 利根・利根中 川村由起夫  
**第四分科会**  
 小中一貫教育を視点において生徒指導を通して  
 つくば・高崎学園第一小 柳橋浩利

**第五分科会**

家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方  
 石岡・関川小 飯塚敬二  
**第六分科会**  
 人間性と専門性を高め、教職員員の意識改革を促す現職教育  
 龍ヶ崎・中根台中 佐藤恭司



**創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践**  
 八千代・西豊田小  
 湯本 春雄

県西ブロック校長会研修会が一〇月一八日（火）県西生涯学習センターにおいて開催された。趣旨は、「茨城県中学校長会の活動目標を踏まえて、学校経営の創意に視点を置き、当面する諸課題について研究協議し、施策の具現化を考究するとともに、校長としての資質の向上に資する」としている。

県西教育事務所管内各小中学校長一五二名が一堂に会し、五つの分科会に分かれて、協議が行われた。来賓として、茨城県県西教育事務所長稲川善成様、県西地区市町教育長代表赤荻利夫様、講師として県西教育事務所所長の五名の先生方に分科会で指導講評をいただいた。

今年度の研究主題は、「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」とし、小学校三名、中学校二名が提案発表した。参加者が明日からの学校経営に生かせる大変参考になる発表であった。発表者と副主題は次のとおりである。

**第一分科会**

地域の教育力を生かした人づくりを目指して

常総・豊岡小 吉田典子  
**第二分科会**  
 地域の実情を生かした人づくりを目指して  
 古河・諸川小 服部仁一

**第三分科会**

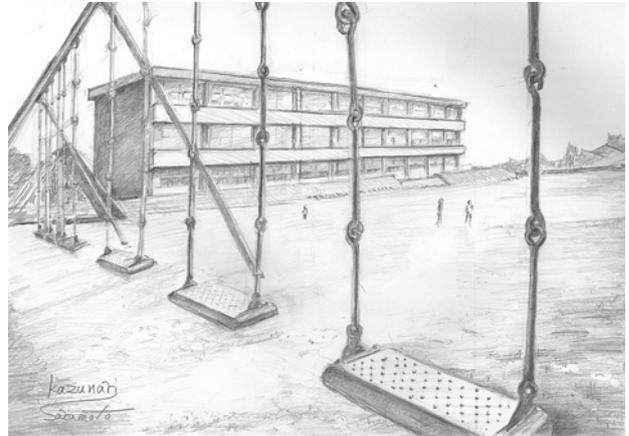
極小規模校の特色を生かした学校づくり・人づくり  
 桜川・猿田小 大武浩二  
**第四分科会**  
 信頼される学校づくりを目指して  
 筑西・下館北中 菊池光彦

**第五分科会**

生徒一人一人の学ぶ意欲を高める学校経営を目指して  
 境・境第二中 近納くに江  
 最後にリオデジャネイロオリンピッククレー射撃日本代表、中山由起枝先生より「五輪と私」の演題でご講演いただいた。今後の学校経営に大いに参考になった。



# ひばり



ありし日の富士ヶ丘小学校  
日立・成沢小 坂本 一成

## 豊かな心を育てる郷土学習 資料室の整理から

太子・依上小  
長谷川 聡

どの地域にも歴史や伝統があり、古い寺や神社、史跡が整備され、学校には郷土資料室という名の部屋に資料が保管されている場合が多いと思う。

着任して間もなく資料室をのぞいてみると、学校の近くにある遺跡から掘り出されたと思われる縄文土器や地域の人々から寄付された農機具、昭和の暮らしを思わせる柱時計や真空管ラジオなど郷土学習の資料が埃をかぶっていた。まさに宝が眠っ

ている状態の資料室。郷土学習の教材や郷土の誇りは、意外にも身近なところに眠っているのだと思った。

なんとか活用できないかと夏休みの職員作業で資料を整理し、必要なものを処分した。作業の手を休め、若い職員に資料の説明をしながら、早く子供たちにも見せてあげたいとの気持ちが高まった。

業務の合間をぬっての作業は思うように進まないが、年度内にはオープンさせて、子供たちが楽しく郷土の誇りを感じられる学習の場を提供できればと考えている。

## 私の宝物

水戸・緑岡小  
鬼澤 真寿

年末に三〇代後半になる教員としての同窓会があった。学級内で連絡の取れる範囲での非公式な同窓会に過ぎなかったが、三分の二以上が集まっていた。

どの年代でも、同窓会に招かれる度に、担任や学校の知らないところで様々なドラマが展開していたことを知らされる。

この学級は、男女の仲も良く、ノリのよい楽しい学級であったが、卒業式を間近に控え、ちよつとしたことから男女間抗争が勃発し、卒業式前日には、すつたもんだの大活劇を休み時間に演じていたというのだ。それを何とか自分たちで解決し、「担任には絶対悟られるな」と緘口令を敷き、翌日は、見事なまでに感動的な卒業式を創り上げた。

心配をかけまいとする気遣いに感動した一方で、自分は本当の子供たちの姿が見えていたのかと、反省もさせられた。子供は子供だけの世界で子供なりにたくましく育っていた。

大人になった教え子たちに、今も私は教えられている。そんな教え子たちは、いくつになっても私の宝物である。

## 楽しむ地域連携

日立・久慈小  
棚井 義広

地域とのつながりが強い久慈地区、その強みを生かして、体験交流会を開催しました。まず、地域の方に声をかけて、子供たちに指導をお願いできる内容を把握することから始めました。

茶道や空手、民謡など十四の体験コーナーの協力が得られました。できるだけ子供たちの希望を重視したいと考えて、希望をとりました。人数の調整には苦労しましたが、何とか第二希望までにおさめることができました。当日は音響や照明にも協力

があり、ステージさながらの様子でした。また、子供たちも保護者も地域の方も体験と交流を楽しむことができました。この交流会（久慈小フェス）でお世話になった方たちに、子供たちの感想を届けたところ、涙を流しながら子供たちからの手紙を読んだという返事をもらいました。

子供たちと地域の方たちとがつながったという思いをもちました。子供たちが久慈地区を好きになり、地域の方が子供たちの成長を楽しみにできるような連携を大切にしていきたいと思えます。

## 鹿島アントラーズに学ぶ

鹿嶋・三笠小  
大槻 啓子

二〇一六年一〇月一日は、鹿島アントラーズクラブ創設二十五周年とホームタウンデイズ「鹿嶋の日」でした。今回、初の試みとして、鹿嶋市内全小学校児童がカシマスタジアムに集まり、試合観戦と応援をしました。憧れのプロ選手の活躍に目を見張ったり、たくさんの人々が応援する熱気を肌で感じたりと、自分の住む地域の素晴らしさに改めて気付く貴重な機会となりました。

その後のJリーグCS優勝、クラブWカップ準優勝、天皇杯優勝という快進撃は周知のとおりで、県の「イメージアップ大賞」受賞も大きな喜びです。来季の活躍も今から楽しみです。

今季の勝因は、選手一人一人が状況に応じて対応できる「自在力」と、選手・監督・コーチ・フロント・サポーターや地域まで一体となった「チーム力」という記事を目にしました。本校でもアントラーズに学ぶ「自在力」を高め、「チームみかさ」を合言葉に、鹿嶋市のめざす「地域が育て、地域で育ち地域を創る鹿嶋っ子」の育成に努めていきたいと思えます。

「お蔭様で。」

河内・みずほ小  
森永 和幸

「お蔭様で。」  
行政職、管理職を経験させて  
いただくようになってから使う  
回数が増えた言葉である。

「蔭」は、古くから神仏など  
の偉大なものの蔭でその庇護を  
受けるという意味で使われてい  
るそうである。本当になるほど  
である。私の学校経営は、先生  
方、保護者、地域の方、子供た  
ち、教育委員会等々様々な方々  
の庇護を受けて成り立っている。  
校長として赴任させていた  
だいた河内町もそんな気持ち  
を強くもたずにはられない地域  
である。若い頃は生意気で自分  
が学校を支えているつもりで仕  
事をしてきた。きつと、教頭の  
時にもそんな傲慢な気持ちがど  
こかにあったと思う。恥ずかし  
い限りである。

「寒いな。焼き芋食べろよ。」  
娘とよく利用する運動公園の  
管理人のおじさんに声をかけて  
いただいた。ホカホカの焼き芋  
は心に沁みだ。人生、本当に「お  
蔭様」だどつくづく感じる。ま  
た、最近強く感じるのは、私は  
他人様へ「お蔭様」を返してい  
るかということである。そんな  
自問をしつつの日々である。

教育の「不易」と「流行」

北相馬・文間小  
浅野 恵次

一四年後、現在の小一児童が  
二〇歳を迎える。二〇三〇年まで  
の社会の変化を見据えた次期学  
習指導要領改訂答申が中教審よ  
り出された。今後は加速度的に  
情報化、グローバル化が進む。  
人工知能等も進歩し、予測困難  
な時代に突入していく。子供た  
ちが主体的に生きていくために  
はどんな力を育めばいいのか。  
今回の答申では、「社会に開  
かれた教育課程」「小学校での  
外国語教科化」「アクティブ・ラー  
ニング」「カリキュラムマネジメ  
ント」等をキーワードとしてい  
る。今後、改訂実施に向けて各  
学校では、新しい教育活動を推  
進していくわけだが、時代の変  
化という「流行」の中で、「生き  
る力」の基盤は、これまでの学  
校教育における「不易」の中  
で育まれてきているものだと思う。

時代の流れに対応する「流行」  
を定着させるためにも、教育の  
基礎基本であり、時代が変化し  
ても変わらない「不易」の教育  
も大事に育んでいきたい。  
私は今、改めて小学校教育の  
重要性を痛感している。教育の  
「不易」と「流行」そのどちらも  
学校経営の根幹には必須である。  
長生の大木は、大地にしっかりと  
と根をはやししているのだから。

夢と感動のある学校

結城郡・八千代第一中  
石塚 浩司

年度途中の異動ではあったが  
新任校長として赴任し、早五か  
月が過ぎようとしている。本校  
は平成二六年度に創立五〇周年  
を迎え、記念すべき年に新校舎  
が完成した生徒数四二一名の学  
校である。合い言葉は、「夢と  
感動」である。人は感動の中か  
ら夢をはぐくみ、夢に向かって  
努力することにより、生き生き  
とした人生を歩むことができる  
と考える。

この五か月の間、「授業で自  
分の考えを自信をもって発表す  
る生徒」、「仲間を激励の言葉  
をかけながら懸命に部活動に取り  
組む生徒」、「文化祭で堂々と特  
技を披露する生徒」など、目標  
に向かって努力した結果として  
の生き生きとした生徒の姿を数  
多く見ることができた。

また、学校は、「学びとの出  
会い」「友人との出会い」「先生  
との出会い」など出会いの場  
もある。本校が築いてきた歴史  
や伝統を大切にしながら教職員  
や保護者、地域の方々との連携  
のもと、出会いを通して夢と感  
動のある教育活動に取り組み  
ていきたい。

アルゼンチンとの交流

境・長田小  
山口 英司

一九三三年に始まった、当時  
のアルゼンチン公使と本校学区  
在住の野本作兵衛氏との友好関  
係が基となり、本校はアルゼン  
チン大使館と八〇年以上の交流  
を続けている。毎年、大使をお  
迎えしての「アルゼンチンの日  
の集い」を開催し、児童との交  
流を楽しんでいた。い

さらに今年度は、境町新規事  
業「長田小学校アルゼンチン派  
遣事業」により、本校の代表児  
童六名と共にアルゼンチン本  
国

を訪問させていただいた。一〇  
月六日からの一〇日間、現地の  
四小学校との交流、テレビ生放  
送番組への出演など、すべての  
訪問先で大歓迎を受けた。この  
事業を通して、参加児童は、ア  
ルゼンチンの文化や歴史、人々  
の優しさを肌で感じ、そして本  
校との交流の歴史の偉大さを再  
確認できたようである。

本校の「アルゼンチンとの交  
流」は、児童、卒業生、地域の  
自慢の一つでもある。この良き  
伝統をつくり受け継いでこれ  
た方々に、そして「地域の中  
の学校」を再認識させていただ  
いたことに深く感謝している。

読んでみませんか

勝ち続ける理由

著者 原 晋  
発行所 祥伝社

新春の「箱根駅伝」で、今年、  
見事に三連覇を果たした青山学  
院大学陸上競技部監督が、一昨  
年の初優勝から昨年の連覇まで  
の道のりを振り返り、勝ち続け  
る理由や勝ち続ける組織の秘密  
について著している。(三連覇  
前の昨年末に発刊)

それは、もちろん一朝一夕に  
成し遂げたものではなく、並々  
ならぬ努力と信念のもと、一〇  
年以上にわたる監督としての組

織づくりが実り、チームが組織  
として成熟した姿である。

内容は、結果を出すための  
チームづくり、個人の指導法、  
勝ち続ける組織の在り方など  
あり、さらには、自チームに留  
まらず、陸上界全体の発展を見  
据えた、斬新な発想による提言  
にまで及ぶ。

スポーツの世界で結果を残し  
ている著者のことは、学校経  
営にも大いに通じるものがある  
と感じた。

稲敷・あずま北小

根本 政世士

# 梅のかおり

—先輩校長から—



## 振り返ってみると



前・ひたちなか市立東石川小学校校長 鈴木 清八

定年退職し、幼稚園に勤務し、もうすぐ一年になります。元気な子供たち、協力的な保護者、そして熱心な職員に囲まれ、恵まれた形で第二の人生がスタートできたと感謝しています。校長時代、職員の意識を高め組織の活性化を図ることで、子供も職員も生き生きとしている、そんな学校経営を目指してきました。校長自身が先頭に立ってリードすることもありますが、私の場合は、職場で人と人とのようなつながり、仕事と仕事がどのように関連し進んでいるのかを把握し、連帯意識やチーム力を高めることに意を注ぎました。

思い通りにいかないことも多く、あれこれと考える時もありましたが、振り返ってみると、実はそういう時が華だとも感じています。

「若さとは、理想や希望に向かつて生きる度合いのことで、歳月の長さではありません。」昔仕えた校長先生の言葉で、退職して感じ入るものがあります。

人生の第二ステージだからこそ、生きる度合いを強く意識したいです。当面は、校長時の反省を踏まえ、幼稚園経営に取り組んでいきたいと考えています。

## 水郡線通勤と読書



市立宮城常陸大学校長 元・常陸山方中学校小堀 修弥

たくさんの方の物に支えられ退職して二年目。学生時代以来となる水郡線で水戸教育事務所まで通勤。列車時間活用にと、書棚を眺め回してみると吉村昭氏の本が出てきた。

県立図書館に勤務していた頃「桜田門外の変図」や著者の原稿を所蔵している関係で、故吉村昭氏の企画展を計画し、著者宅を訪問し、各種原稿や万年筆、

写真などをお借りしてきた。その当時、「桜田門外の変」「天狗争乱」など著書を買って込んだままになつてしまったのである。

著者は、作品を書くにあたって現地で入念な調査・資料収集した上で執筆したとのこと。作品の中には、県内の今でも残る地名や○○家など、身近に感じられ、幕末を旅しているかの様に詳細に描かれている。

これらの読書が契機となつて特に江戸初期から幕末にかけての水戸藩の歴史(天狗と諸生の内部抗争や拳兵と西上)に興味をもった。その足跡を辿っていると、各藩の出来事や尽力した人物等々、次から次へと興味がつきない。

今後やりたいことのひとつが見つかった。歴史探訪の旅(各地で猪口収集し地酒も嗜む旅)。

## 空も飛べるはず



市立茨城市北茨城小学校校長 元・北茨城市津小竹内 克直

「君と出会った奇跡が この胸に溢れている きっと今は自由に 空も飛べるはず……」 出会は、奇跡である。現職

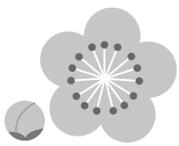
の終盤から退職してから数多くの出会いがあつた。

ミニバスケットボール・勤務校にあつた少年団の指導者が不在となり、保護者の依頼により指導することになった少年団の子供たちとの出会い。体力的な苦しみも多いが、子供たちのたくさんの笑顔から心強いエールをもらっている。

適応指導教室…いろいろな理由により学校に登校できない子供たちとの出会い。自分でできることを通して一人一人の子供たちに寄り添い、心のエネルギーを蓄えさせたい。

キンモクセイ(バンド名)…最後の勤務校(石井竜也さんの母校)で石井さんの寄付で購入したギターで指導した子供たちと石井竜也さんとの出会い。そして、退職後のギター仲間との出会い。現在多くのコンサートに参加している。今後、諸施設の慰問などを考えている。

これからのいろいろな出合いを大切にしながら、さまざまなボランティア活動などを通して、自分の空を飛んでいきたい。



## となりの芝生



市立神栖小学校校長 前・神栖植松市原 武

退職して、早一年半が過ぎようとしている。現在は、市文化スポーツ課で、社会教育指導員として、週三日勤務している。

退職の時は、定年退職したら、様々な夢を描いたり、希望を抱いていた。我々の先輩で、退職した人々を見ると、実に楽しそうに、第二の人生を謳歌している様子が見うけられ、羨ましくも思え、どんな生活が始まるのだろうかと思っていた。時間も足りず、今まで行ったことのないところへ旅行に行ってみようかとか、ゴルフにももう少し行こうかとか、夢は大きく膨らんでいた。

いざ、三月に定年退職してみると、三五年間の勤務から解放され、自由になったんだという実感は、一瞬であったような気がしている。退職する前に想像していた生活は、また、毎日の日常の生活の中に消えていってしまったような気がしている。今、本当に、「となりの芝生」は良く見えるんだと実感している。これからの生活、またリセット

トし、充実感ある生活にしたいと考えている。

### 心の豊かさ



前・土浦市立  
土浦第三中学校長  
酒井 将志

退職して八か月。今は県南教育事務所勤務し、三月までとは違った視点から学校教育を見る機会をいただいています。教師も子供も笑顔一杯の授業に心を癒やされています。

四月からの大きな変化は、時間に追われる生活から解放されたことです。そして、家の周りを散策したとき、朝の光に照らされたオレンジ色の筑波山、春には一面真っ白な花をつけ、秋の陽に黄色に輝く葉をまとう梨畑など豊かな色彩に感動を覚えるようになりました。畑の手入れをしているときには、目の前を通り過ぎていく雉子の親子の微笑ましい光景に見入ってしまった自分にも気付きました。旅行に出かけたときも目に映る風景は今までとは違い、ものの見方や感じ方が変化しているように思います。

現場にいるときには、速さと

成果を求められることが多く、立ち止まることに不安を感じながら進み続け、見過ごしていたものがたくさんあったのかもしれない。心に余裕をもつことでいろいろなものが見えてきます。豊かな心が育まれ、笑顔溢れる学校になるよう応援していきたいと考えています。

### 忘れ物



前・石岡市立  
石岡中学校長  
岩田 知行

退職する少し前、総体の陸上競技会場で、偶然、A子に再会した。二五年ぶりだった。

中学三年の時は、ほとんど登校しなかったA子だったが、人懐っこい笑顔を私は忘れなかつたし、A子も担任でもない私を覚えていてくれた。

「私は学校へ行かなかつたけど、息子にはちゃんと学校に行ってほしいし、進学もしてほしい。」トラックのスタートに立つ中学生の我が子を、眩しそうに見つめて、A子がそう眩いた。「息子が出る時は、仕事休んでも、必ず応援に来ちゃうんです。」嬉しそうにA子は続けた。

一〇〇m男子五組目スタート。A子は、思いを吐き出すように、大きな声で応援している。私も一緒に大きな声を出す。ゴールする我が子を見つめるA子の横顔は、幸せそのものだった。

「次の参観日に、必ず学校へ行くので、また、先生に会えるのが楽しみです。」そう言って、我が子のもとへ走って行った。その年、息子は、無欠席で卒業し、高校生になった。

### 散歩、大好き



前・筑西市立  
新治小学校長  
海老原 覚

毎朝の散歩は、心のゆとりと意欲を高めてくれる。また、爽やかな空気を感じながら歩く楽しさも格別である。

こうして散歩を始めて、九年目の秋を迎えた。暦の上では霜降、ぐつと冷え込み朝日が昇ろうとするオレンジ色の時間、木々が一層輝く姿に命の深さを感じずにはいられない。深い色

合いになってきた大きな櫛。葉が落ち、存在感を増してきた柿の実。十五夜、十三夜で活躍した薄の穂が金色に輝いている。眼に映る秋の自然を楽しみながら歩いていると、色々な思いが浮かんでくる。

「今日は、Aさんにどんな声を掛けようかな。」  
「昨日の新聞記事を咀嚼して、話のタネにしよう。きっと役立つぞ。」

「子供たちのあいさつがいいから、校長先生に連絡しよう。」等々。

歩を進めると、地域の皆さんと「おはようございます。」「今日は、一段と寒くなりましたね。」と、言葉と交わす。

温まってきた体に人々の温かみや心地よい風を感じ、「がんばるぞ。」と、気合いが入る。明日も朝の散歩が楽しみだ。

### 「トレンド」について



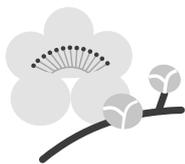
前・坂東市立  
岩井中学校長  
倉持 利之

サービス過剰、深夜営業見直し、週四日勤務等々。組織経営の在り方が話題になっていま

す。労務管理面からも組織トップの経営力量発揮の時です。先ずは、意識改革。これだけ時代が進化してくると、職業の多様化に伴い、どの仕事にも職務と勤務態様の「特殊性」がでてきます。したがって、様々な労働環境(条件)と職務の特殊性は別個に考えなければなりません。顧客のニーズにこたえるための長時間勤務(過重労働)やむなしではなくなってきたという事です。

もちろん、経営トップ個人だけの取組には限りがあります。横と縦の連携。教育では、校長会、退職校長会、PTA役員会、地域団体、組合等との横の連携。そして、市町村や県、国等との縦の連携。地道に、そして本気になって取り組む姿勢には必ず助っ人が現れます。

この国の潮流(トレンド)が、「働き方の見直し」である今こそ、トレンドののって『魅力ある職場づくり』を目指してください。そのことが、次代の日本を支える子供たちの「生きぬく力」の確実な育成につながります。



# 市町村教育委員会と学校長会

## 猿島郡

### 町教育委員会との連携について

五霞・五霞東小  
木村 靖

五霞町校長会は、小学校二校、中学校一校の計三校で組織されている。

本町では、学校教育目標を

○自ら学び、自ら考える力を開発し、確かな学力と生涯学習の基礎を築く。

○人間性豊かにたくましく生きぬく力と思いやりのある心を培う。

○社会の変化に対応できる個性の輝く人間の育成に努める。

と制定し、「家庭・学校・地域三位一体の教育」をめざしている。

#### 一 町校長研修会の開催

町校長会では、毎月一回の定例会と必要に応じての臨時研修会を開催している。これらの会には、町教育委員会（以下、町教委）より教育長・指導主事が同席し、会としての取組や町教委との共催事業、各校の抱えて

いる課題について、町教委の指導もいただきながら、三校という小規模な組織の利点を生かし、各学校と町教委との緊密な連携のもと、協議、情報交換を行っている。

#### 二 学力向上への取組

本町では、重点課題である児童生徒の学力の向上を図るために、校長会長を委員長とした五霞町学力向上対策委員会を設置している。

本委員会は、三校の全教職員

と町教委から教育次長・指導主事・学校教育担当者が加わり、六つのグループ（①学習指導

②学校行事 ③生徒指導 ④特別支援教育 ⑤人権教育 ⑥学校事務）を組織して、学力向上を図るための諸施策の立案、推進、調整を行っている。

#### 三 「五霞っ子体験交流教室」の実施

本町では、昭和六三年より小学校二校の五年生が、夏季休業中に千葉県九十九里町に二泊三日で合同宿泊学習「五霞っ子体験交流教室」を実施している。この行事は、未来の五霞を担う子供たちが、雄大な太平洋の自

然を体験しながら、班ごとの宿泊体験、町内二小学校児童、さらには九十九里町の小学校児童との交流等、海辺でしかできない様々な体験を行うものである。これらの体験を通して、心と体の調和のとれたたくましい人間を育てることを目指して、町教委と連携を密にし、毎年実施している。

## 東茨城郡

### 町教育委員会との連携について

城里・桂小  
古市 敏夫

城里町学校長会は、小学校五校、中学校二校の計七校で構成されている。

毎月開催している定例の研修会は、教育長、事務局長、指導主事二名に町立幼稚園長一名を加え、一二名で運営している。

定例の研修会以外でも、学校長と教育長はじめ教育委員会との情報交換・共有がスムーズで、臨機応変の適切な対応ができ、保護者・地域との信頼関係の構築ができていく点も小さな町な

らではのよさである。

一方で、町の児童生徒数が、本年度は小学生八三二人、中学生五三四人、合計一三六六人で、平成二十一年の一八八七人と比較して三〇％近く減少しており少子化が課題であるが、平成二十八年三月に策定した「城里町教育振興基本計画」の基本理念「城里で幸せに生きる力を身に付ける『ここで学び、ここで育つ』大好き城里」のもと、三つの基本方針、一「ともに社会を生き抜く力を身に付ける教育」、二「安心して学べる教育環境の整備」、三「生涯にわたって学べる環境の整備」を設定し、学校教育の充実に努めているところである。

平成二八年度は、学校長会と教育委員会が連携して九年度郷土のよさを学び、郷土を愛する心を育むことのできる学習教本「城里学ぶつく」の作成が進行中である。また、子育てしやすい町づくりの施策では、五歳児の保育無料化、小中学生の給食費負担軽減、高校生に通学費補助制度などが始まった。

私達校長会は魅力ある学校づくりの一つとして、児童生徒の指導に直接関わる教師の指導力向上に努めている。具体的には、講師を対象に教員採用試験の二次試験対策に力を入れ、本年度

の受験者八人中七人の合格者を出すことができた。また、学校運営のリーダー養成を目的に、中堅教員、教務主任、教頭を対象に「学校運営研修会」を主催している。

町教育研究会の事業では、毎年二校を対象に研究指定による授業公開を実施し、指導主事とともに授業力の向上を目指して協議を重ねている。全国学力学習状況調査、県学力診断のためのテスト対策として、町の実態分析をもとにした「町確認テスト」を作成・実施し、教育委員会の支援をいただきながら学力向上を図っている。

## 編集後記

年末には、中央教育審議会の答申が出されました。私たち学校には、子供たち一人一人に、変化に主体的に向き合い、自分の可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせてほしいという大きな期待が寄せられています。この期待に添うべく校長会も一つになって努力していきます。

なお、第二三七号の発行に当たり、年末年始の御多用の中、先輩の皆様を始め多くの方々から貴重な原稿をお寄せいただきました。深く感謝申し上げます。